

幼稚園保育についての希望

誠之小學校長 杉浦恂太郎

第一に考へていたゞきたい事は幼兒の境遇をよく整理する事です、物のよく整理せられたる境遇の中で幼兒を保育する事です。周圍の事情の感化といふものが、幼兒にどれほどの影響があるかといふ事を考へて見ると、その境遇を作るといふ事にはよほどの注意が必要になります。たとへば部屋の裝飾とか机とか椅子の如きに至るまで日々よく整頓するといふ事が大切であります。そしてそれが幼兒の保育に對して如何なる意味をもつかと云ふ事もよく考へなければなりません、そして無意味なものは一切おかないといふやうにしたいと思ひます。

第二に幼兒にさせる作業といふやうなものも、幼兒の好んで趣味をもちかつ幼兒に適當したものを撰んでもらひたいと思ひます。砂場の遊びなど

はよほどよいと思ひます、子供の考へ通りに積んだり崩したり遺憾なく自己の意志を發展する事が出来る最適當な遊びであると思ひます。其他なるたけ幼兒自ら力をのべてゆくやうな遊び道具を與へて、しらすく自己を發展させるやうにありたいと思ひます。それから考へて幼兒にえんぴつでちいさな畫などかゝせるのはあまりおもしろくないと思ひます。それよりも壁面にボードでもかけて、柔かいチョークで、子供の意志の通りの畫を自由にかゝせた方が有効な結果を得るであらうと思ひます。

幼稚園が小學校の準備では決してありません。

幼稚園は幼兒の天然の發達を有効にさせる場所なので小學校の直接の準備場所ではありません、それですから直接に準備的の所置をしてゆくといふ

事はおもしろくないと思ひます。幼稚園で、自然と幼児の人物を發展するやうな保育をしさへすれば、自らそれが小學校の準備にもなるわけなのであります。

今一つ注意しなければならぬ事は幼児の個性であります。感情の強い子供をあまり訓戒したり叱つたりするのはよろしくありませんまた秩序正しい動作を無理に要したりする事は自然を破る事になりはせぬかと思ひます、感情の強い子供にはな

「エミール」の幼児教育感懐(二)

二 女王の務

春の光が暖かに園生を照らす時に萌え出づる草花の芽を損はじと守るは園守の務である。人の世の春を集めて家庭の園に萌え出づる若草の幼な子

るべくこちらから融和するやうに、また叱るなどいふ事は滅多にしないやうにして、その性質の變化を待つがよさうです。各自の個性をよく見て強過ぎるやうなのは次第にやはらげて中性を得しむるやうに自然に導くやうにしたいものです。一方に於ては子供の相互間の關係、一方に於ては個々の特性を適當に指導してゆくといいふ事でありたいもので御坐います。

文。學。士 福 島 政 雄

を守りはぐむは母の務である。あゝ母親といふ一言ほど吾々の心に無限の神韻を響きたせる言葉があるであらうか。

「婦人が其の子供に對する務に就いて疑ふことが出来るであらうか。」母親の雙の乳房から滴る甘